

受刑者に於ける梅毒血清反應成績に就て

金澤醫科大學細菌學教室(主任谷教授)

青 木 利 弘

Toshihiro Aoki

伊 與 雄 二

Uji Eyo

森 岡 誠

Makoto Morioka

金澤刑務所醫務課

高 島 實

Minoru Takasima

白 木 光 雄

Mituo Siraki

(昭和24年1月17日受附)

第1章 緒 言

梅毒は結核と共に人類の最大脅威であり、國民の蒙る被害は頗る大なるものがある。特に敗戦後の思想的混迷と經濟的窮乏とは巷に犯罪を激増せしめ、又刹那的快樂を追うものようやく多く、性病の蔓延を招來すること必至であり誠に憂慮に耐えぬものがある。

梅毒は犯罪と密接な關係を有し、犯罪問題に重要な位置を占めるものとされて居り、受刑者に於ける梅毒血清反應成績に就て、杉下¹⁾はK刑務所新入男子受刑者632名に就き21.36%の陽性率を得、有馬¹⁾は前橋刑務所收容受刑者627名中21.85%が血清學上確實梅毒なりと報告し、山村¹⁾は宮城刑務所受刑者156名に就き30%の陽性率を得、村上¹⁾は金澤刑務所受刑者421名に就き25.9%±2.1の陽性率を得、橋詰²⁾が千

葉刑務所及び同所千潟作業所收容の受刑者910名に就き23.5%の陽性率を得たと報告して居る。以上の報告は全て戦前に於てなされたものであり、戦後なされた此の種報告は寡聞にして未だ知らない。

そこで吾等は受刑者の梅毒蔓延狀況の現況を知り、併せて梅毒と犯罪との關係を調査せんとして、金澤刑務所收容男子受刑者948名に就て、ワッセルマン反應(W. R. と略稱)、カーン反應(K. R. と略稱)、及び村田氏反應(M. R. と略稱)の3反應により梅毒血清反應を施行し陽性率23.7%±1.3なる成績を得たので之等3反應検査成績より觀た金澤刑務所受刑者に於ける梅毒蔓延狀況に就て報告する次第である。

第2章 検査材料及び検査術式

検査材料：金澤刑務所收容男子受刑者948名に就き、昭和23年8月3日から同年10月26日に亘り、同刑

務所醫務課に於て採血したものであり、血清検査は金澤醫科大學附屬醫院検査部に於て施行した。

検査術式：W. R. 施行術は谷教授の著書¹⁴⁾に従つた。

K. R. 施行術式は原著者³⁾の標準法に據り、抗原

は原著者の製法に従つて作製したもので、抗原價は1.3であつた。

M. R. 施行術式は原著者⁵⁾の方法に従つて行い、抗原は鹽野義製藥會社發賣の村田氏反應用梅毒診斷液を使用した。

第3章 検査成績

1. 各反應の検査成績

各血清反應の検査成績は第1表に示す如くであり、確實陽性(+)以上のものをみると、K. R. の241例(25.4%±1.3)最も多く、次でM. R. の237例(25.0%±1.3)で、W. R. は更に少く224例(23.6%±1.3)であつた。痕跡陽性(±)に於ては、K. R. の12例(1.3%±0.3)、W. R. の10

例(1.0%±1.0) M. R. の6例(0.6%±0.2)の順に少なかつた。更に(+)及び(±)を合したものに於ては K. R. 253例(26.7%±1.4) M. R. 243例(25.6%±1.3)、W. R. 234例(24.6%±1.3)の順位であり、陽性出現率は K. R. 稍々優るが、3反應相互間に大差を認める事は出来ない。各反應の陰性成績は従つて陽性率と相反する故

第1表 各反應の検査成績

	(+)	(±)	(+)+(±)	(-)	計
W. R.	224 (23.6%±1.3)	10 (1.0%±1.0)	234 (24.6%±1.3)	714 (75.3%±1.3)	948
K. R.	241 (25.4%±1.3)	12 (1.3%±0.3)	253 (26.7%±1.4)	695 (73.3%±1.4)	948
M. R.	237 (25.0%±1.3)	6 (0.6%±0.2)	243 (25.6%±1.3)	705 (74.3%±1.3)	948

省略する。

2. 陽性及び陰性率

吾等は3反應の検査成績共に(±)又は(+)以上を呈したものを以て陽性と判定し、3反應共検査成績(-)なるものを陰性とした。2反應一致或は1反應のみを以て(±)又は(+)以上を呈

した場合は之を「疑」として取扱う事とした。以下之に準ずる。

第2表に示す如く、陽性者數225例(23.7%±1.3)陰性者數692例(73.0%±1.1)、及び「疑」31例(3.3%±0.5)の成績を得た。而して3反應の相一致せるもの合計917例で實に96.7%±0.5の

第2表 陽性及び陰性率

反 應	一 致		不 一 致
	陽 性	陰 性	
成 績	225(23.7%±1.3)	692(73.0%±1.1)	31(3.3%±0.5)
	917(96.7%±0.5)		

一致率であつた。

3. 年齢と検査成績

検査成績を被検者の年齢別によつて觀察すると第3表の如くである。

陽性百分率は36-40歳のもの87名中、陽性25例であつて28.7%の最高であり、次で26-30歳の26.3%、21-25歳の24.3%、31-35歳の22.4%、20歳以下の21.8%の順序であり、其の他の

第3表 年齢と検査成績

年 齢 (歳)	検査 人員	陽性	疑	陰性	陽 性 率
20以下	32	7	0	25	21.8
21—25	333	81	6	246	24.3
26—30	205	54	8	143	26.3
31—35	125	28	4	93	22.4
36—40	87	25	4	58	28.7
41—45	64	12	3	49	18.7
46—50	48	9	2	37	18.7
51—55	18	3	0	15	16.7
56—60	19	3	2	14	15.8
61以上	17	3	2	12	17.6
計	948	225	31	692	23.7±1.3

階級にあつては略々 同率で之に續く。

4. 性病既往歴と検査成績

性病既往歴と検査成績との関係を觀察するに當り、先づ被検者を大別して性病の既往歴のあるもの及び無きものの2群とし且つ病名別に細別した。

第4表に示す如く、「軟性下疳」の陽性率は82.5%で最高率を占め、「梅毒」の55.0%之に次ぎ、更に「淋疾」(45.2%)「淋疾梅毒軟性下疳」(41.7%)の順位である。而して性病の既往歴あるものの群全體の陽性率は平均56.5%の高率であり、無きものの群の陽性率は12.7%の低率であつた。

第4表 性病既往歴と検査成績

性病既往歴及病名	検査人員	梅毒血清 反應陽性	梅毒血清 反 應 疑	梅毒血清 反應陰性	陽性率(%)
既往歴あるもの					
淋 疾	124	56	14	54	45.2
微 毒	40	22	6	12	55.0
軟 性 下 疳	63	52	1	10	82.5
淋疾梅毒軟性下疳	12	5	3	4	41.7
計	239	135	24	80	56.5
既往歴なきもの	709	90	7	612	12.7
合 計	948	225	31	692	23.7±1.3

5. 配偶關係と検査成績

配偶關係と検査成績との関係を調査して第5表に示した。即ち、離婚者に於ける陽性率33.3%で第1位にあり、次で未婚者の27.7%、有妻者の24.4%の順序に少く、鳏寡者の23.2%が最低位であつた。

罪名別により梅毒蔓延の状況を觀ると第6表に示す如くである。

即ち、罪名別に於ては、「窃盜強盜」に屬するものが被検者總數の81%以上を占め、次で「詐欺横領」が多く11%であり、他は極めて僅少で

第5表 配偶關係と検査成績

配 偶 關 係	検査 人員	陽性	疑	陰性	陽性率(%)
未 婚	681	158	21	502	27.7
離 婚	15	5	1	9	33.3
鳏 寡	18	5	2	11	23.2
有 妻	234	57	7	170	24.4
計	948	225	31	692	23.7±1.3

6. 罪名と検査成績

第6表 罪名と検査成績

罪 名	検査 人員	陽性	疑	陰性	陽性率(%)
窃盜・強盜	768	185	26	557	24.0
詐欺・横領	113	26	2	85	23.0
強姦・猥褻	6	2	0	4	33.3
殺人・傷害	21	6	1	14	28.5
脅迫・恐喝	16	3	2	11	18.7
放 火	2	0	0	2	0
其 の 他	22	3	0	19	13.6
計	948	225	31	692	23.7±1.3

あつた。陽性率に於ては、「強姦猥褻」33.3%で最高、次で「殺人傷害」の28.5%「窃盗強盗」の24.0%「詐欺横領」の23.0%「脅迫恐喝」の18.7%「其の他」の13.6%の順序であつた。放火は2名共に陰性であつた。

7. 入所度数と検査成績

入所度数と検査成績との関係を觀察するに當り、先づ被検者を大別して初入者と累犯者に大別し、且つ入所度数別に細別した。

第7表に示す如く、「初入」は496名であり、陽性率は25.4%であつた。「累犯」は452名で、其の陽性率は21.9%であつた。累犯を更に、入所度数別により觀ると、陽性率は概ね、入所度数を加えるに従つて増加を示し、「10回以上」の

第7表 入所度数と検査成績

入所度数		検査人員	陽性	疑	陰性	陽性率(%)
累犯	初 入	469	126	17	353	25.4
	2 - 3	293	61	8	224	20.8
	4 - 5	74	16	2	56	20.6
	6 - 7	55	14	3	38	25.4
	8 - 9	23	6	0	17	26.0
計	10以上	7	2	1	4	28.6
	計	452	99	14	339	21.9
合 計		948	225	31	692	23.7±1.3

28.6%が最高率であり、「4-5回」の20.6%が最低率であつた。

8. 教育程度と検査成績

検査成績を教育程度の面から窺うと第8表の如くであり、「無修學」の28.8%が最高率、次で「高等小學卒」(24.9%)「高等小學中退」(24.2%)「中等學校中退」(24.0%)「尋常小學中退」(23.5%)が相伯仲して之に續き、更に「中等學校卒」(21.2%)「尋常小學卒」(20.0%)「高等專門中退」(20.0%)は低く、「高等專門卒」の11.1%が最低率であつた。例数が少數なため確實な事は言えぬが、教育程度の進むに従ひ陽性率が低下するものの如くである。

第8表 教育程度と検査成績

教育程度	検査人員	陽性	疑	陰性	陽性率(%)
無修學	66	19	3	44	28.8
尋常小學中退	68	20	1	47	23.5
尋常小學卒	240	48	3	189	20.0
高等小學中退	33	8	2	23	24.2
高等小學卒	397	99	12	286	24.9
中等學校中退	54	13	3	38	24.0
中等學校卒	66	14	4	48	21.2
高等專門中退	15	3	2	10	20.0
高等專門卒	9	1	1	7	11.1
計	948	225	31	692	23.7±1.3

第4章 總括竝に考案

以上の成績を總括考案するに

1. 各反應個々の(+)以上の成績は、W. R. 23.6%±1.3 K. R. 25.4%±1.3 M. R. 25.0%±1.3 であり、K. R. の陽性出現率最も多く、W. R. 之に次ぎ、W. R. が最も低率であつた。W. R. K. R. M. R. の3反應を同時に施行し其の成績を比較検討した報告に未だ接しないので各反應の陽性率を討比するに、W. R. と M. R. とに就て、和田¹⁶⁾ 岡本⁸⁾ 岡谷⁹⁾ 栖田¹²⁾ 高田¹⁵⁾ 等何れも M. R. に比し W. R. の陽性出現率の稍々劣る事を認めて居り、M. R. と K. R. とに就て、三宅⁷⁾ 緒方¹⁰⁾ 重松¹³⁾ 等何れも K. R. の方

が鋭敏であると報告して居り、吾等の得た成績は諸家の報告とよく一致して居る。

2. 吾等は3反應の検査成績共に(±)又は(+)以上を呈するものを陽性と判定し、被検者948名中225名、即ち23.7%±1.3なる陽性率を得た。緒言に述べた杉下¹¹⁾の21.36%有馬¹⁾の21.85%、山村¹⁷⁾の30%、橋詰²⁾の23.5%と略々近似の成績であり、特に同一刑務所に於て、昭和12年村上が得た25.9%±2.1とは稍々低率ではあるが、有意の差はみられなかつた。

而して3反應の相一致したものの合計は917例で實に96.7%±0.5の一致率であつた。

3. 更に検査成績を年齢別によつて観ると、36-40歳の陽性率28.7%が最高であり、概ね之を中心として左右に漸次減少して居る。然し41歳以上の年齢層に於ては20%以上の陽性率を示す階級は1個もないのに反し、35歳以下では何れの階級に於ても20%以上を占めて居る點は注目すべきものとする。

4. 性病既往歴を訴えた者に於ける陽性率が56.5%の高率を示したのは蓋し當然と云う可く、性病既往歴なきものの群の陽性率は12.7%の低率であつた。

5. 配偶關係から検査成績を観ると、離婚者の陽性率33.7%が最高で、次で未婚者の27.7%が高く、有妻者、鳏寡の順に少なかつた。村上⁴⁾の報告では離婚者の32.4%が最多で、未婚者は最低率となつて居り、注目すべき事項と考える。

6. 罪名別と検査成績との關係を観ると、強姦猥褻罪の陽性率33.3%が最高であり、次で殺人傷害罪、窃盜強盜罪、詐欺横領罪、脅迫恐喝罪の順に少く、「其の他」の13.6%、放火罪の0%が最低率であつた。強姦猥褻罪が最高率であるのは、此の種犯罪者が性的不徳義漢である事よりみて、容易に首肯される。

7. 検査成績を入所度数別により観ると、累犯者に於ては入所度数の大なるに従い陽性率も高くなり、「10回以上」の28.6%が最高率であつた。初犯者に於ては既に25.4%の高率であり、

累犯者總計の平均陽性率21.9%よりも更に高率であつた。以上の成績は村上⁴⁾其の他の諸家の報告と全く相異なる處であり、唯、橋詰の成績に於ては初犯者の方が高率を示して居るが、彼は之を偶然の結果ならんと述べて居る。然し吾等は偶然の結果とは考えない。

8. 教育程度と検査成績との關係を観ると、概ね教育程度の進むに従い陽性率は減ずるものの如くであり、無修學者の28.8%が最高率で、高等専門學校卒業者の11.1%が最低率であつた。

之を要するに、今回吾々の行つた調査では、陽性率23.7%±1.3なる成績であり、從來の諸報告と略々類似の成績であるが、更に之を検討すると、受刑者の60%以上が30歳以下の年齢層で占められて居る點、30歳以下の各階級の陽性率が何れも高率である點、未婚者の陽性率が27.7%の高率に及ぶ點、更に初犯者の陽性率が25.4%で累犯者のそれよりも高率である點、而して未婚者の最多數は30歳以下であり、初犯者の最多數も亦30歳以下の年齢層である點、以上の諸點を總合考察すると、從來の諸家の報告と大いに異り、世相に最も敏感な30歳以下の青年層の犯罪者數竝に陽性率が著しく増加して居る事が窺える。

之は戦後の受刑者微毒血清反應陽性率の著明なる動向であると信ずるものであり、邦家の爲誠に憂うべき傾向である。

第5章 結 論

金澤刑務所收容男子受刑者948名に就き、微毒血清反應検査を行い次の如き結論を得た。

1. 各反應個々の検査成績は確實陽性に就て、カーン反應(25.4%±1.3)、村田氏反應(25.0%±1.3)、ワッセルマン反應(23.6%±1.3)の順位である。

2. 受刑者の微毒血清反應陽性者は225名であり、陽性率は23.7%±1.3である。

3. 年齢別に於ては、36-40歳の28.7%が最

高率を示し、概ね之を中心として左右に漸次減少して居る。而して41歳以上の高年齢層よりも35歳以下の若年齢層の陽性率が高い。

4. 性病既往歴あるものの群の陽性率は56.5%の高率で、性病既往歴なきものの群に於ては12.7%の低率である。

5. 配偶關係に於ける陽性率は離婚者の33.7%が最高率で、次で未婚者、有妻者、鳏寡者の順位である。

6. 罪名別に於ける陽性率は強姦猥褻罪の33.3%が最高率である。

7. 累犯者に於ては入所度数多いもの程、陽性率も一般に高い。然し初犯者に於ては25.4%の高率である。

8. 教育程度の進むに従い陽性率は一般に低下するものの如くである。

9. 30歳以下の青年層に於ける陽性出現率が増加の傾向にある。

(摺筆するに當り終始御懇篤なる御指導と御校閲を賜つた恩師谷教授に深謝す。本研究に際し野原所長の御援助を蒙ること多大にして、且つ検査成績の公表を快諾せられたことに對し深謝す。)

文 獻

- 1) 有馬: 行刑衛生會雜誌, 11, 447, 531, 599, 837, 869, (昭11).
- 2) 橋詰: 體性, 30, 4, (昭18).
- 3) Kahn: The Kahntest. 83. 111. Baltimore Williams & Wilkins comp (1928).
- 4) 村上: 犯罪學雜誌, 11, 539, (昭12).
- 5) 村田: 日本醫事新報, 140, 2, (大13).
- 6) 村田: 東京醫事新誌, 2725, 1121, (昭6).
- 7) 三宅: 岡山醫學會雜誌, 49, 2291, (昭12).
- 8) 岡本: 十全會雜誌, 40, 1813. (昭10).
- 9) 岡谷: 十全會雜誌, 37, 1788, (昭7).
- 10) 緒方: 綜合醫學, 3, 176, (昭21).
- 11) 杉下: ルエス, 13, 71, (昭10).
- 12) 稻田: 十全會雜誌, 42, 982, (昭12).
- 13) 重松, 宮入, 芦原: 公衆衛生學雜誌, 49, 2291, (昭12).
- 14) 谷: 醫學微生物學, 南山堂, 初版, 355, (昭23).
- 15) 高田: 十全會雜誌, 46, 2447, (昭16).
- 16) 和田: 皮膚と泌尿, 7, 177, (昭14).
- 17) 山村: 行刑衛生會雜誌, 12, 2, (和12).

腎疾患に對し特異的に作用する タレノキシン

組成及成分

特 徵
適 應
包 裝

實驗的に腎炎に罹患せしめた動物の腎臓に於て形成せられ腎臓疾患に對して治癒的作用を現す能動性物質のリンゲル溶液で、生物學的検査によつて常に一定の強度を有する。

腎炎、ネフローゼ、腎性高血壓、動脈硬化症に對する特異的治癒作用
急性及慢性腎炎、ネフローゼ、動脈硬化症、浮腫、腹水、妊娠腎

10cc 5管 靜、筋、皮用 (5cc中「ネフロトキシン」2家兎單位含有)

2 cc 10管 (皮下注) (1cc中「ネフロトキシン」2家兎單位含有)

新發賣

中村瀧製藥株式會社

東京都中央區日本橋本町三丁目五

